

第36回 法人会全国青年の集い沖縄大会の報告

令和4年11月25日(金)に第36回全国青年の集い沖縄大会が沖縄市で開催されました。コロナ禍以降、初めてのフル開催ということで当初予定の1600名を大幅に超える約2300名の青年部会員が現地に集結し、当会からは杣友部会長が参加しました。

記念講演では、精神保健指定医・労働衛生コンサルタント・公認心理師として活動し、また青年部会員でもある吉村健佑(けんすけ)氏が、「財政健全化につながる！健康経営の実装と実践」と題して講演されました。40分という限られた時間にも関わらず多くの事例を挙げながら歯切れのよいトークを披露した吉村氏は、健康経営には「結果の見える化」、「参加し易い、続け易い」、「地域の特性、会社の特色を」の3点が重要であると宣言し講演を締め括りました。

大会式典は、平良大会会長の開会の辞に始まり、主催者である全法連青年部会連絡協議会佐藤会長、全法連小林会長の挨拶に続き、来賓の国税庁課税部長、沖縄県知事代理、沖縄市長から祝辞を頂きました。

その後、前日に行われた租税教育活動プレゼンテーション、そして前回佐賀県でのプレ開催を経て正式には今回が初開催となる健康経営大賞事例紹介の審査結果発表があり、租税教育活動部門で最優秀賞を受賞した鹿児島県連鹿児島法人会青年部会、健康経営大賞部門では鹿児島県連鹿屋肝属(かのやきもつき)法人会青年部会、島根・雲南法人会会員の株式会社きこり様の事例発表がそれぞれ行われました。

租税教育活動事例では「租税教室～税でエールを～」をテーマに7枚のオリジナルカードを制作。7枚のカードは実際に県が行っている政策をカード化したもので、それらをカードゲームのように組み合わせることでその生徒独自の政策を構築し、他の生徒は誰の政策(カードデッキ)にエールを送りたいかを決めるというシンプルなルールで、遊びながら税金を学べるというものでした。

健康経営大賞の事例紹介は鹿屋肝属法人会が健康経営宣言書の提出を促進するため会独自の認定書を発行するなどの工夫を紹介し、そして株式会社きこり様は会社独自の体操を作ってyoutubeにアップロードするなど、自分たちで楽しみながら健康経営を行える仕組みを発表していました。

式典の最後は、沖縄の方言で「助け合い」の意味を持つ「ゆいまーる」の精神を胸に、新城実行委員長の沖縄大会宣言で締めくくられました。

今回の青年の集いに参加して、法人会青年部会の活動の柱である租税教育活動の更なる充実と現在もう1本の柱となるべく展開している健康経営の情宣と推進をしていくことが、法人会青年部会、ひいては徳島県全体の活性化につながるの思いを新たにしました。